



第128号

平成24年2月1日発行
 発行所
 長崎大学玉園同窓会
 〒850-0029
 長崎市八百屋町36番地
 ☎095-824-5494
 発行人 天
 小川大天
 (株)昭和堂

記憶に残る体験活動を

理事 峰 松 終 止



ング計画と、その実践を経てこの日を迎えるそうです。

テレビ画面に大きく映し出される子どもの顔、泣きじゃくり歯を食いしばるその顔は真剣そのものです。雨風が強いのでしょうか、歩くことさえ難いそうです。親は子どもに付き添いただただ歩くだけです。手を貸す親はいません。

これはある幼稚園の富士登山の記録です。この幼稚園では毎年夏になると年長の園児が富士登山に挑戦することが慣例で、先輩に続けと一人も嫌がらないそうです。園では発達段階に応じてトレーニ

かなりの時間が過ぎやつと山頂に着きました。ずぶ濡れの様子ですが子どもの顔は輝き、手を取り合い喜び合っています。親も同じです。我が子を抱きしめ涙ぐんでいます。素晴らしい光景です。

昨年の夏、私も富士山に登りました。二度目でしたので気持ちのゆとりはありました。相変わらず登山口は混んでいました。その中には、幼稚園児の団体もいくつか見かけました。山頂まで登るのかどうかはわかりませんがどの子も楽しそうな笑顔です。

私はその日、七合目で一泊し翌朝早く山頂に向かいました。天気は快晴で問題ありませんでした。が、八合目ごろからいつもの調子が出ません。体力が不足していたのか高山病にかかったのか……。そんな時、前述した幼稚園の子どもたちのことを思い出しました。自分はその子どもたちに負けているのでは……。と。

あの記録から考えると夏でも山頂は気温が十度前後。風雨が伴っていましたから体感温度はそれ以下だったと思います。子どもたちは、親に甘えることができない、親は子どもに手を貸すことができない状況の中で、互いに友だちを助け合い、苦しさを我慢して頂上を目指していました。

私はしばらく休憩しているうちに体調もどおり山頂へ向かいました。山頂からは相模湾や江の島が見えるほどの素晴らしい眺めで前回に増しての充実感に浸りました。テレビの中の子どもたちも親も同じく、くじけず最後まで頑張った達成感は生涯忘れることはないと思います。そして、子どもたちは目標を持つこと、自分にしかできないこと、仲間と助け合うこと、見守ってくれる人がいること……等の感覚の芽を体得したのではないかと思います。改めて、子どもたちに、親に、幼稚園の方針に感動しました。

体験活動については教育現場、家庭、地域においてそれぞれ様々な取り組みが行われています。そして、子どもたちはその活動から多くのことを学んでいると思います。

慣例だからということだけではなく、いかに興味を持たせるか、意欲を湧かせるか、指導者は案を練りますが、ちょっとした言葉かけ、ふとした行動のひとつが何十年過ぎて心に残っていることがあるものです。

子どもたちには将来の生活に役立つ、記憶に残る体験をして欲しいと思います。

主題

「我が校の教育課程の改善と実践」

小学校では、新学習指導要領の全面实施から、半年が経とうとしています。

教育内容の主な改善事項であります、「言語活動の充実」「数理能力の育成」「伝統や文化に関する教育の充実」そして「外国語教育の充実」等は、どう具現化され、実施されているでしょうか。新学習指導要領の理念を明確にした、自校の特色ある教育活動が展開されているものと思います。

また中学校においては、次年度から始まる完全実施を目前にして、高等学校では二五年度実施を目指し、「生きる力の育成」をふまえて生徒の実態や地域の特性を生かした特色ある教育課程が編成され、実施に向けた諸準備が整いつつあると考えます。

そこで本会報では、本年度一年間、標記主題のもと各学校の取り組みの現状を紹介し合い、研修の場にしたとを考えました。

一二七号では、江上小学校・福重小学校・神浦中学校・彼杵中学校に紹介していただきました。

一二八号においても、前号に引き続き、他の学校の取り組みの現状を紹介し合い、研修を深めていきたいと考えます。

基礎・基本のよさを実感し、 内在化させる算数科学習指導

西海市立大串小学校長 池田 敏彦



I 育てたい子どもの姿

第二学年算数科単元「三角形と四角形」の初発では、多様な形から「さんかく」の仲間を見付ける活動を行った。相互に紹介しあうと、各々がさんかくとする形が違いうことに気付く、「だれもが『さんかく』の仲間とする形」について話し合った。やがて、「角や辺の数が三つ」「すべて真っ直ぐな辺」等の条件を満たす「さんかく」こそ「皆が合意する『さんかく』な形」であることを納得するとともに、「これらの構成要素を観点にすれば、皆が同じ図形として認識することができるといふよさを実感した。

II 「基礎・基本の徹底」の起点

このように、客観的に図形を観るためには、万人が納得する共通の観点が必要である。「二本の直線で囲まれている形を三角形とい

う」との定義は、構成要素を視点にして図形を観る見方のよさに立脚しているのである。

知識は、根底に「よりよい考え方のよさ」の層を有する。「基礎・基本の徹底」を図るためには、「考え方のよさを実感させること」が決定的に重要であり、それが他場面においても活用力の源泉となると、本校は考えている。

III 「考え方のよさ」の実感

しかし、「よさ」は教えることができるものではない。「よさ」は自ら実感するものである。また、よさは相対的である。そのために、「対話」を重視し、次の三つの場を設定した。

一 活動との対話

問題解決を中心とする活動について疑問や欲求を抱き、課題を特定し自力で問題解決を図る。

二 級友や教師との対話

よりよい考え方について議論する。

三 自己との対話

自己の考え方の変容を振り返る。そこで本校は、研究主題を「基礎・基本のよさを実感し、内在化

させる算数科学習、対話力の育成をとおして」と設定し授業改善を図っている。

IV 対話力の育成

既述の場に対応した対話力育成の研究内容は、次のとおりである。おはなし力(思ったこと・はっきりさせたいこと・なぜ・したいことが言える。)の習慣化に、学校して取り組む。具体的には「一時間五回挙手」を目指している。

○活動の設定、解決。これに取り組むことによって、「基礎・基本のよさ」を実感できること、既習の学びを生かすことができるなどの程よい抵抗感があることなど、学び甲斐のある活動を設定する。

○「話し合いの視点」の設定。級友と考えの比較(同じ・違い)を促し、よりよい考えについて議論させる。教師は、考え方の強化や転換を図るかわりを行う。

○振り返り話型の習慣「はじめ、と考えていたけど、に変わりました。それは、だからです。」という型を身に付けさせ、自己との対話を図る。

これらの「活動」「話し合いの視点」「振り返り話型」の在り方について、全員研究授業や校長の授業訪問等とおして、研究を進めているところである。

V 本研究の価値と展望

本研究は、学習指導要領が謳う

「言語活動」に、目的的に対応するものである。また、「生きる力の三段階(自立的に↓共に↓よりよく)」にも、PISAの読解力

(受信、思考、発信力)にも対応する。知識基盤社会、生涯教育の観点からも大切な研究だと認識している。

ふるさとに抱かれながら、たくましく学ぶ子ども

雲仙市立南串第二小学校長 三丸和明



本校は、島原半島南西部に位置し、児童数一四五名(六学級)教職員十四名の学校である。児童は純朴で明るく活発な子が多く、豊かな自然の中で伸び伸びと学んでいる。ただ、近年よく言われているように生活体験不足が感じられ、時に場に應じた対応力や自己表現力に課題が見られる。保護者は、半数近くが専業の農漁業を営んでいる。純農漁村といっても過言ではない。学校や育友会行事には非常に協力的で学級部会等には、ほぼ一〇〇%の参加があり、学校に対する信頼と期待が伺える。地域も同様に、学校には協力を惜しまないという伝統が強く残されている。

そのような中で、過疎化の傾向は本校も例外ではなく、地域には「ふるさとを何とかしなければならぬ」という危機感が感じられる。そこで、「学力や心の豊かさ」の教育と同時に、「ふるさとを思い、ふるさとを盛り上げていく」人材の基礎作りも重要であると考えた。そのためには、地域と関わり地域を知り、地域を好きになることから始めようと思い、「ふるさとに抱かれながら、たくましく学ぶ子どもを目指して」というテーマを設定し地域学習に取り組んでいる。これは、新学習指導要領が示す「伝統や文化に関する教育の充実」にも通じるものと考えられる。

地域の特色を生かした本校の取り組みの一端を紹介する。

一 学校経営の基本姿勢

○「子どもは星である」

どの子どもそれぞれに輝きたいと願っている。良さを認め励ましな

がら指導し自信を持たせ、何事も自ら積極的にチャレンジし、たくましく学ぶ子を育て輝かせたい。

○「教師にはプライドと夢を」

教育に携わることは崇高な営みである。一人ひとりの教育のプロとしてのプライドを大切に、日々、自己研鑽を積み、子どもとともに成長しながら夢を叶えてもらいたい。

○「開かれた信頼される学校に」

人と人との関わりを大事にしていきたい。学校の情報は、様々な機会に分かりやすく伝え、敷居を低くし、連携して教育ができる環境を作っていかなければならない。

二 地域学習で目指すもの

○地域を知り学校も知ってもらうこと

○地域の良さに気づき誇りに思うこと

○どこにいても地域に役に立つ人になりたいと考えること

○人との関わり方を覚え感謝の気持ちを持つこと

○自分で考え自分の思いを伝えることができること

三 特別活動・教科・総合的な学習の時間の取り組み

・地域清掃や毎週一回の登校時のゴミ拾い(全学年)【特別活動】

・初蒔きから餅つき大会まで(五年生が主体で全学年)【特活・総合】

新学習指導要領全面実施を前にして



長崎市立式見中学校長

森下 秀男

中学校においては、いよいよ新しい学習指導要領による教育課程（以下、新課程と略します）が、平成二十四年度から全面实施されます。既に各校で取り組まれたこととしますが、本校でも四年前から「まず、平成二十四年度の新課

中学校においては、いよいよ新しい学習指導要領による教育課程（以下、新課程と略します）が、平成二十四年度から全面实施されます。既に各校で取り組まれたこととしますが、本校でも四年前から「まず、平成二十四年度の新課

- ・さつまいも栽培（一・二年生）
- 【生活科】
- ・南串たんけん（三年生）【総合】
- ・昔の生活を知ろう（三年生）
- 【総合】
- ・歴史遺跡探訪（四年生）【社会科・総合】
- ・ジャガイモ掘り（四年生）【総合】
- ・海再発見と魚教室（五年生）
- 【総合】
- ・町の福祉施設訪問（五年生）
- 【総合】
- ・菊作り（六年生）【総合】

・地域の老人や特別支援学校との交流（六年生）【特活・総合】

以上のような取り組みの中で、子どもたちは自分の住む町のことを知り良さに気付いてきている。高学年からは、「町、あるいは人の役に立つ人間になりたい」という思いを持つ子も出てきている。また、人との関わり方も学ぶことができ、自分の思いを伝えたり他人の思いを推し量ったりする力も育ってきつつある。

地域の発展を願い、取り組みを深めながら継続していきたい。

り、様々な議論がなされました。しかし、四年後の確定値としての時数から割り出される実現可能な内容を想定する作業は、何のための教育課程か、という原点に立ち返る契機となりました。また、教育課程と並行して進めてきた校内研修の中に、言語活動の充実を位置づけていました。今年度は、全面実施の前年度ということもあり、教科指導におけるそれぞれの実践及び共通実践に加え、特別活動等においても外部からの機会を積極的に利用しました。詩の選者である講師を招聘して、詩についての全校授業。新聞社の元編集委員に講師を依頼して、新聞の活用学習及び新聞記者としての生き方を通してキャリア学習。また、長崎市国際観光課及び長崎市教育委員会から機会をいただいたマレーシアとの国際交流会。これらにより、道徳・特活・教科の少なくとも三領域に関連した教育活動を仕組むことができ、併せて言語活動の充実への取組に関する検証の機会にもなりました。

方針を改めて三指示しました。

一 現行の学校教育目標・基本方針において、既に教育三法及び県や市の教育方針・振興計画・第四次総合計画等と整合性がとれていること。

二 特色ある教育は学力向上拠点形成事業の研究を根幹としながら、その発展を進めること。

三 選択教科削減にあっても、情操を育む音楽科等の活動を保障すること。

一については、これまでも、教育三法及び新しい指導要領が示す「生きる力」の再定義や学力の三要素、県・市の教育方針、振興計画、第四次総合計画等確認してきたことです。

二については、極論すれば「本校の特色は、地域性と研究」です。これは、新課程の編成に当たっても、心を育て、学力と体力を伸ばす研究の視点で進めるということを意味します。一つ例を挙げれば、基礎学力を身につける際に、教科領域にとどまらず道徳・総合・特活の領域まで関連を具体化するというものです。教科内で、習得・活用を循環させ、教科外においてそれをさらに拡張させることを目指したいと考えます。

三については、学力を支えるのは情操であることを徹底したいと思いがあります。そのために教育課

程の四領域相互の関連内容の検証や日課の再検討等を進めているところですが、まだ満足できる段階

ではありません。二月までには完結し、四月からの円滑な実施に踏み切りたいと思います。

生徒一人一人の自立心を培う学校経営

佐世保市立宮中学校長 平 元 隆 久



義務教育の究極的な目的は、「自立」にある。社会の力となり、社会の承認を得るとともに、温かな家庭を築き、自らの力で幸福な人生を切り開いていける力をつけることである。これは、新教育基本法や中教審答申「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」にも触れられている。

かわいい生徒たちに囲まれ、共に歩んでいく毎日。感謝の念に堪えない。しかし、「自立」という観点では変容を求めざるを得ない。生徒は素直で純朴であるが、過保護は否めず、言動に甘えが目立ち、覇気と粘り強さが求められる。以下、実践したことを述べる。

一 学校経営方針の明確化

① 実態把握・職員指導

校門、集会指導 駅伝練習指導 各部応援 生徒・保護者・地域・職員の意識の違い調査 生徒による職員（校長含む）個々の観点別評価↓目標管理シート面接時に個々に開示 授業研究をとおした把握

② 保護者・地域への啓発

経営構想のビジュアル化 各種会合での説明 学校だよりを地域回覧板へ

二 学校経営方針の具現化

① 組織の強化

担任会（学年間の連携）の導入 ↓毎週、職朝報告 担任・副担任 共同実施（学年内の連携）の導入 業務の整理、縮減、一本化 明るい職場 ↓職員旅行、年休取得推進（平均四日増）、振替・割振の確実な履行

② 学校教育目標の具現化

ア 求めて学ぶ（知） 授業改善研究発表 一人年二回

以上研究授業 全職員による第三学年五教科オールＴＴ イ たくましく（体）

全校体育の導入 ↓週二回、一〇分間走 朝夕の車での送迎禁止、集団下校、下校個別ルートマップの作成 駅伝練習 ↓町民運動会マラソンへの奨励 小中合同運動会を単独体育へ 集会での無言入場の習慣化 野活、修学旅行での訓練

ウ 心豊かな生徒（徳）

生徒による地域への奉仕作業の導入 地域主催『宮ふれあい祭り』へ参加 宮中応援歌の復活 ↓体育大会伝統の掘り起こし 校内音楽発表会をコンクール形式へ あいさつ、礼法指導

三 成果と課題

ア 求めて学ぶ（知）

昨年度三年生は全国学力調査県平均より高く、基礎学力調査市平均より一四ポイント以上高かった。本年度の学年は人間関係のトラブルが激減し、学習環境が随分整ったものの意欲の改善には至らない生徒が見られ、後期に全職員による五教科ＴＴを実施し、意欲の向上を図っている。

イ たくましく（体）

生徒・保護者・地域を含めた診断の中で最も厳しい評価を下した職員平均値が、昨年度前期から学期ごとに上昇している。具体的に

は、車の送迎が皆無になった。集会・授業時の姿勢がよくなった。駅伝練習参加生徒が激増し、遅刻・途中休憩する生徒がほぼ皆無になり、劇的な変化があった。また、各種作業においても、明るく前向きに取り組む姿勢が多くなった。さらに、あいさつの声が大きくなった。

ウ 心豊かな生徒（徳）

地域に貢献する活動をとおして、地域の方から大変御好評をいただいた。また、単独の体育大会では伝統を掘り起こすことができたこと、自分を表に出すことができたことができたことなどを全校生徒が実感し、生徒会役員選挙にも効果が現れた。大会の成功をあこがれの対象としてとらえ、力のあるリーダーたちが次期役員に立候補した。一方、生徒の自己評価が高く、自己理解を含めて意識の改革を図り、自らの殻を自ら破ろうとする意欲を高めていきたいと考えている。

さらに、組織として、担任・副担任共同実施及び全職員による第三学年五教科オールＴＴは、毎日研究授業をしているのと同様で、大変効果があった。また、担任会と担任・副担任共同実施を併せて、包括的な隙間のない指導体制に効果があった。

わたしの教育実践

毎日行きたいと思うような学級作りをめざして

長崎市立西浦上小学校 崎 康 由



私は小学二年生の担任で、子どもたちが毎日行きたいと思うような学級を子どもたちと一緒に作りたいと考え取り組んでいます。今回は、A君との出会いをお話し、学級作りを進めたことを紹介します。一学期当初の彼は、笑顔が少なく、気に入らないことがあると、暴言をはいたり、物で殴ったり蹴ったりすることが当たり前でした。周りの子が怪我をしないかと感じる毎日、その都度叱っていました。しかし、ふてくされるだけで反省する様子はほとんど見られず、友だちに対して謝ることもできません。そんな日が続いたある日、叱っているとき、「僕のこと嫌いなんですよ。」と言われました。その言葉を聞いて、ドキッとしました。今まで叱るばかりで、褒めもしなかった楽しい時間をつくっているわけでは

もなかった自分を振り返らせられる言葉でした。

それから毎日、放課後に一日の振り返りをするようになりました。気になる行動はたくさんありましたが、どんなに些細な事でも良かったことを取り上げ、褒めて連絡帳にも書きました。それを保護者の方にも毎日見てもらうようにお願いしました。また、休み時間にはできるだけ話をし、一緒に遊びました。遊ぶときには、いろんな子と一緒に遊ぶことを心がけました。二学期の終わりになると素直な面が見え始め、笑顔で過ごす時間が増えてきました。友だちとのけなかが減り、自分から謝ることがさりげなく友だちを手伝うことができるようになってきました。友だちと一緒に活動することも楽しいと感じているようです。

彼が、認められていくと感じ、友だちと仲良く過ごす楽しさを知ったことで、周りの子どもたちも笑いあっている時間が増えました。まだまだ課題はありますが、良さを伸ばす大切さを感じた経験でした。これからも、学級の子どもたち一人ひとりの良さを認め、毎日登校したいと思う学級作りにも励みたいと思います。

私のスクールプラン

大村市立三浦小学校 田 中 真紀子



毎年、新年度のはじめに「〇年組スクールプラン」を立てます。それを子どもたちや保護者に説明して、クラスづくりをしていく上での、自分の思いを理解してもらうようにしています。

今年度は、昨年度から持ち上がりで六年生を担当することになったので、卒業を見据え、二年分の思いを込めて考えました。大きな柱としては、「最高学年として動く六年生」「学習のシステム化」の二つです。

まずは、「動く」ことです。「自分たちで動かす」「低学年とのかかわりで動く」「学校行事や学級活動で動く」「委員会やクラブ活動で動く」など、たくさんあります。みんなが考えて自主的に動けば、学校全体が良くなる、みんなはこの学校のリーダーなんだ、ということに常に意識させました。

次に、学習のシステムは、「安心できる・高め合える・活発な授業」「きまりや約束をしっかりと守る」「継続することの大切さ」です。

自分の考えを自由に伝えることができる・みんなで考えを深め合うことができる・一時間の中で分かったと思える授業・を旨にした。また、学校のきまりを守るだけでなく、「クラスのきまり」として、自分たちでクラスを良くするためにどうしたらいいかを考え、教室前面に掲示し、きまりを守ることの大切さを考えていきました。それから、学習は毎日の積み重ねが大事ということを実感できるような取り組みも考えていきました。朝の活動の時間や家庭学習なども活用しました。このように、当たり前のことばかりかもしれないが、私が日々心がけて実践していることです。私たち教師にとっては、長い教師生活の中の一年でも、子どもたちにとっては今年しかない貴重な一年。このことを常に頭において、これからも努力をしていきます。

長縄の指導を通して

五島市立崎山小学校 藤 尾 由美子



私は毎年、学級の子どもたちと「長縄で一分間に何回跳べるか」に挑戦しています。これは、七年前「運動会などの大きな行事が終わった後、クラスの新しい目標を定めるためにも、いい取り組みだからやってみたら」と先輩の先生から勧められたことがきっかけでした。

今年も二年生の子どもたちと共に十月末から長縄を始めました。最初の記録は一分間に四回。「難しいなあ」と表情がこわばる子どもたち。「ここからがスタート。四回よりたくさん跳べるようになろう。きつとできる!」と励まし、この日から練習が始まりました。練習の時、学級の合い言葉である「ドンマイ!」という声が飛び交いました。「ドンマイ!」という言葉は縄に飛び込む勇氣と、仲間を思いやる優しさを与えてくれる魔法のような言葉でした。仲間が引っかかった時、「ドンマイ!」と

言うことで、「記録が伸びずに残念」という気持ちよりも「大丈夫! 頑張れ!」という気持ちが強くなるのです。

練習を重ねるうちに、つまずいた仲間を責める言葉は自然になくなりました。そして、「得意な人はコツを教えよう。うまくならなかったら、どんどん教えてもらおう。みんなであうまくなっていこう。」という雰囲気生まれ、背中を押したり「今!」と声をかけたりして跳ぶタイミングを教えるようになりました。

こうして一体感が高まるにつれて二十回、三十回と記録はどんどん伸びていきました。最初がっかりした分、記録の伸びは大きな喜びとなり自信となりました。目標にできた五十回を超えた時にはみんな抱き合って喜びました。「みんなの心が一つになれば何だってできる」

これは、学級の子が二学期の振り返りの作文に記した言葉です。二か月間の長縄の取り組みを象徴した素晴らしい言葉だと思っています。これからも長縄をとおして、みんな心をつなげる喜びを重ねていきたいと思っています。「ドンマイ」の合い言葉と共に。

絆 ― 道徳授業と学級経営 ―

佐世保市立小佐世保小学校 白 濱 陽 平



平成二十三年を表す漢字として「絆」が選ばれた。本校でも本年度は「絆」を重点テーマに様々な教育活動を行ってきた。私自身も教職十一年目となり、十年経過研を中心として「絆」をテーマに道徳授業を要とした授業実践と学級経営に力を入れてきた。

まず、担任する六年生の学級で「絆とは何か」を考えさせた。協力、個性の伸長、信頼：子どもたちは見通しを立て学習を始めた。道徳授業ではペア学習を積極的に取り入れ、子どもたち同士の主体的な意見の深め合いを重視した。時には私自身が本気で議論し、子どもたちの心をより深く耕すよう努めた。さらに、道徳と他の教育活動との関連付けを私自らが強く意識してきた。個性の伸長を価値とする道徳授業では国語科の創作した俳句のよさを認め合う活動を

終末の資料として活用した。また、体育のマット運動で経験した仲間との協力を道徳授業で振り返るなど、学校生活全体を通して「絆」の学びを深めた。

子どもたちの行動や言葉の変化が学校生活の様々な場面で表れた。修学旅行の班編成では「よい機会だから、普段よく遊ぶ人同士は別の班になり、学級の絆を広げ、深めよう。」という意見が出された。これに全員が賛同し、「絆」を合い言葉にした班編成を自主的に行うようになった。校外学習の昼食では全員が一つの輪になり、笑顔いっぱい時間をすごした。

このような子どもたちの姿を見るたびに、教科指導や学級経営における道徳の重要性を今更ながら実感する。十年研を通して教師としての基礎基本を振り返り、これからの課題や自分の在り方考えることができたのではないかと思う。今はまだ本校の様々な先生方から学ぶことも多い。まだまだ教師として未熟である。怠ることなくこれからも研究と修養に励んでいきたい。

「道徳の授業」実践

佐世保市立東明中学校 荒木祐子



今年度は、私にとって十年経験者研修という一つの節目を迎えました。これまで、経験年数を意識したことはほとんどありませんでしたが、研修の度に「十年選手」や「中堅教員」と呼ばれ、十一年度の自覚が少しずつ芽生え、意識するようになりました。同時に、これまでの学級経営や教科指導を振り返り、「私は本当に『十年選手』と呼ばれるだけの力をつけてきたのだろうか。」と不安も感じています。

そんな私が初任の頃から特に興味を持って取り組んできたものが、道徳の授業です。道徳指導は授業の度に、本当に難しいと感じています。それは、時間をかけた資料分析や発問・授業展開の工夫をしても、生徒の意見や反応によって計画通りに進まないことが多々あるからです。また、発問が微妙に変わるだけで生徒の反応が大きく変わり、私にとって、それが非常

におもしろく、「もつと道徳を学び、良い授業を行いたい!」という原動力になっていきます。

これまで、道徳の「良い授業」とは一体どのような授業なのだろうと、その答えがなかなか出せずにいました。そんな時、熊本での道徳教育研究大会参加の機会を得ました。その時、道徳では生徒の心をしっかりと揺さぶることが大切であることを知り、道徳指導のヒントを得た気がしました。それからは「一人ひとりがしっかりと考える場」を大切にして、授業を計画・実践しています。まだまだ反省ばかりの授業実践ですが、「しっかりと価値に迫っていたのか。生徒はじっくり考えることができたのか」ということを中心に、振り返るポイントを明確にすることができると感じています。

また、道徳の授業に対する私の思いが伝わっているのか、「先生の道徳の時間が楽しみですよ。」と、生徒の声が聞かれるようになり、嬉しく思っています。

今後は、自分自身が学ぶだけではなく、研究授業等にも積極的に取り組むと共に、学ぶ場を提供していきたいと思っています。それが、「十年選手」として私がすべきことだと感じています。

自分自身の言葉で

五島市立岐宿中学校 藤原秀和



「先輩の行動を盗め!」新任当初の私は、その言葉を素直に受け止めすぎていたようです。もちろん、先輩教師の実践を見ることは大変勉強になりました。生徒に語る言葉一つをとっても、私には思いつかないような語りかけで、生徒がやる気に満ちていく姿を多く見せていただきました。学級経営や教科経営、校務分掌の仕事まで先輩がどのように動いているのかを観察し、そのとおりに実践していたことを思い出します。

しかし、私が実践すると、先輩のようにうまくいきません。原因はいくつもあると思いますが、最も大きなものは、私が自分の考えで動いていなかったからだと思います。

どんなに良い言葉でも、語り手の熱意の込められていない言葉など生徒の心に響くはずがありません。

ん。教師として、「生徒にどうなつてほしいのか、何がいけなかったのか、どうすればよいのか」をしっかりと自分自身の言葉で語り、最終的に生徒を変容させる力が教師には必要だと最近ますます感じるようになりました。

学校行事等の運営に関しても、「去年がこうだったから今年も同じように!」ではなく、「自分が教師としてどうしたいか、生徒にどうなつてほしいか」をきちんと考えて起案するように努めています。新しいことを始めるのには大変な労力を要しますが、終了後には大きな充実感があります。

幸い、今の学校は、私のような若手のアイデアであつても尊重され、実践させてもらえる、働きやすい雰囲気のある学校です。自分の考えが足りない時でも、実施の方向でアドバイスをくれる皆さんの同僚がいます。

今の恵まれた環境と、実践の中で感じられる生徒たちの変容を励みに、これからも「自分自身の言葉」を大切にして、教師力を高めていきたいと思っています。

数学からの挑戦

「美しき数学が育む心の教育」

長崎市立小島中学校 神門 英樹



「もしも数学に美がなかったら、おそらく数学そのものも生まれなかったことだろう。人類の最大の天才たちをこの難解な学問に引きつけるのに、美のほかにどんな力があり得ようか。」

これはチャイコフスキーの言葉です。今回、「私の教育実践」をテーマに原稿依頼を受け、「どんなことをしてきたかな」と振り返ってみました。採用されて六年多くの子どもたちと触れ合った時間は、授業であると考えました。そこで、数学の授業における教育実践を紹介したいと思います。

まず、子どもたちの意識にある「数学は難しい」を払拭することです。そのためには、数の計算や方程式の文章題を自力解決させ、答えが一つ出てきたことに對する達成感を味わわせます。文章題は時間や苦勞が積み重なるほど、求めた答えと模範解答が合致したときの喜びは大きいものです。難しいと酷評される数学を解ける喜び、求める答えが一つ出てくる爽快感、これは子どもたちが実感として「数学の美しさ」に触れる一つではないかと考えます。

次に、肉眼で確認できる数学の美しさに触れさせることです。では、肉眼で確認できる美しさとは、

それは、「 $\sqrt{2}$ と桜の花びら」、「因数分解とクレジットカード」、

そして「パルテノン神殿と黄金比」などの数学です。以前は、選択教科の中で「美の数学」をテーマとして調べ学習に取り組んでいました。最近では単元の終末で隠れた数学は、私たちが気付かないところで美を表現し、調和のメロディを奏でています。その美しさに触れる機会は、単元の学習と関連させていくことで、学習効果を高め、探究心を育てます。「美しいものを美しいと感じる心」、これは素直さや純粋さを育み、自尊心を高め、美しき自分、美しき社会をつくる礎にもなると考えます。さらには、教科における道徳教育ともなり、数学の美しさが育む心の教育ともいえると考えます。

数たちは気がつかないところで美を表現し、調和のメロディを奏でていきます。また、数たちの演じる優雅な舞と美しい調和の調べを目の当たりにした数学者は、一生をかけるだけでは足らずに、数式というバトンで後世に渡してまで探検を続けています。「生きることとは学ぶこと」と言われるように、私自身が学ぶ姿勢を忘れず、授業を通して数学の美しさを伝え、数学者からの教育に挑戦し続けていきます。

「班ノート」

大村市立西大村中学校 赤川 祐一郎



「絆」、平成二十三年を表す漢字として発表されたこの一文字ですが、教員として三年目を迎える私が、この一年、学級経営を行う中で大切にしてきた一文字でもありました。担任と生徒、生徒と生徒の間の信頼関係を築くためには、どうすればよいのか試行錯誤をしながら模索してきました。

四月から継続してきたことは、「班ノート」です。常に自分の思っていることを書き、次の人へ回す。当初はその日あったことを、ただ書き並べる程度の「班ノート」でしかありませんでしたが、学級通信で紹介し、帰りの学活の中で読むという取り組みを続ける中で、少しずつ自分の気持ちを書くようになってきました。三年生といえど、どこへ行くにも「受験」という言葉がつきまとい、不安やプレッシャーも、級友が同じよう

に感じていることを知ると、安心して共に、本音を語ってくれる級友を信頼できるようになります。その実感を私だけでなく、生徒たち自身も感じているようでした。

「班ノート」が活性化したのは、体育大会や合唱コンクールなどの学校行事です。行事への取り組みには少なからず温度差が生じます。応援合戦にしても合唱にしても、リーダーとそうでない生徒に別れますが、「歌は苦手だ」という生徒の思いをリーダーが知り、「まとめるのは大変だ」というリーダーの思いを他の生徒が知ることによって、互いに相手を思いやるようになります。コミュニケーション能力が低迷している今の生徒たちですが、「班ノート」を通じて、「思いを伝え合うこと」の大切さを感じながら、生徒たちの間に見えない「絆」が築かれていくように思います。

「思いを伝え合う」それによって生まれる「絆」。それを生徒たちにどうすれば感じてもらえるか、今後も様々な方法を試し、生徒と思いを通わせられる、そんな教師を目指します。

母校だより

日本公認
印刷

大学のグローバル化と

教育学部

長崎大学教育学部長 山路 裕昭

最近の大学改革のキーワードの一つは、「グローバル化」であろう。確かに、昨今の金融情勢、特に円高によって、さまざまな生産拠点が海外へシフトし、企業は外国人採用を増やしていることがニュースとして流れている。このような状況下で大学における人材養成も変化することを求められている。

○ 大学グローバル化の動き

既に平成二十年七月には、文部科学省ほか関係省庁が、わが国とアジア、世界との間のヒト、モノ、カネ、情報の流れを拡大する「グローバル戦略」を展開する一環として、「留学生三十万人計画」を策定している。この計画は、平成

三十二年を目途に留学生受入れ三十万人を目指すものである。

また平成二十二年六月に中央教育審議会大学分科会が出した「中長期的な大学教育の在り方に関する第四次報告」では、大学教育のグローバル展開の促進に関して、「海外との大学間連携の促進」「アジア地域の経済の一体的進展を見通した人材の育成」「アジア地域における大学教育の質保証の枠組に向けた努力」が示されている。

そしてこのような中、各大学においては、留学生や外国人教員の受け入れ、日本人学生の海外派遣、英語コースや日本語教育の充実、海外への情報発信、質の保証など、国際化に積極的に取り組むことが求められている。

○ 教育学部における国際交流

長崎大学に在籍する外国人留学生

生は次第に増加しており、現在大学全体では三百八十五人、教育学部には二十八人が在籍している（平成二十三年五月一日現在）。

大学全体でも、教育学部でも、中国と韓国からの留学生が多いのが特徴である。また教育学部ならではの留学生として、教員研修留学生を多くの国々から長年にわたって受け入れてきた。

他方、単に留学生を迎えるだけでなく、これまで教育学部では国際交流のさまざまな取り組みを行ってきた。例えば、韓国・漢陽大

学校との海外教育実習プログラム ISTEP (International Student Teachers Exchange Program) は既に平成十七年から実施しており、中国・東北師範大学、北京師範大学、上海師範大学、韓国・漢陽大、慶北大学の学生・教員も参加する「日中韓音楽フォーラム」は平成十八年から実施している。

また平成二十年度から情報文化教育課程（いわゆる新課程）が募集停止となり、そのクロスカルチャーコースにおける経験を小学

校教育コースの多文化理解実践専攻として活かしたが、その専攻の学生たちが前述の国際交流にも参加している。

このような教育学部における国際交流活動は、従来、特に芸術関係教員の努力と協力に依存するところが大きく、教育学部全体でこれを支え、グローバル化の中で教員養成をどのように展開し、発展させるべきかについては、検討が不十分であった。

○ 今後の課題

平成二十三年度、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」に對して「文化を越えて知を融合する教師養成プログラム」を申請した。このプログラムは、日中韓の学生たちが共同クラスを組織し、三カ国で共に学びつつ国際理解教育の先導的役割を担うことを目指すものである。残念ながら採択はされなかったが、教育学部における国際交流事業の将来を構想する大きな契機となった。

今後は、この申請を無駄にしない

いために、さらにプログラムに検討を加えて実現の可能性を探りたい。その中で、外国人留学生の増加や日本人学生の海外留学機会の増加を図りたい。また、国際理解教育の充実に向けて、教育学部のカリキュラムを見直すことも必要と考えている。

しかし大切なことは、制度の新設や改革も必要ではあるが、グローバル化に対してまず教育学部のより多くの教職員と学生たちが向き合い、取り組むことであろう。

自由な学問共同体で 学ぶ喜び

国際文化講座（社会）

教授 谷川 昌幸



教育学部では、十二年前の赴任以来、自由な学問共同体で学ぶこ

との喜びを存分に満喫させていたできました。

専門の政治学の授業では、ホッブズ、ロックからM・ウェバー、丸山眞男まで、主に政治哲学の古典を講読しましたが、古風な訓詁学的授業であつたにもかかわらず、熟読による熟議を楽しむことができ、古典のもつ、「白熱教室」とは別の意味での、深甚な教育力に改めて感動させられました。一方、国際関係論、アジア文化論などの授業では、グローバル化と人権・平和の関係を中心に、現代世界の最新の議論を追うことができました。たとえば多文化共生、包摂参加民主主義、平和構築などについては、学生の皆さんと一緒に、あれこれ試行錯誤しながら授業の中で共に学んでいきました。

そして、何といっても最も多くを学んだのは、ゼミです。政治学は人間学である（丸山眞男）を motto に、ゼミ生の皆さんには研究テーマを自由に設定し、マニアックに研究していただきました。ルソーや福沢を読み込む書齋派から、

アジア、アフリカ、北欧に実地調査に出かける行動派、レゲエや坂本龍一に陶酔する感覚派、さらには魔女や妖怪に魅せられた神秘派まで。そしてそこには、ネパールやベルギーなどからの留学生もまた参加する。特に、年二回の恒例二泊三日ゼミ合宿では、研究発表と喧喧諤諤の徹夜討論、総当たりテニス大会など、青春爆発、実に面白く、私のような老人にとってもたいへん勉強になりました。

教育学部では「学生顧客主義」に則り精一杯奉仕してきたつもりなのに、実際には私自身が教えられ学ばされてきたようで、内心忸怩たるものがあります。そのような私に寛容に活動の場を与えてくださった教育学部に感謝申し上げます。教育学部が、学生と職員と教員からなる真の自由な学問共同体として、ますます発展していくことを祈念いたしております。

データを集める

数理情報講座（理科・地学）

教授 近藤 寛

私は昭和四十四年に教育学部理学科を卒業した。卒論は長与町の地質調査であり、長与町を歩いて露頭の観察、三七〇枚の岩石薄片の作製を行った。当時は「四年生は講義以外の時間は卒論研究をする」であり、相当の時間を卒論にあてた。

研究は関連論文を読み未知の事柄を知り、結果を予想してのデータ収集が効率的である。長与の調査は論文が殆どなく無駄が多かったが、多くの露頭の観察と記録が卒論の中身を支えていると思う。

昭和五十一年から理科・地学で学生を指導した。野外調査と露頭の見方を重視し、直接にデータ（資料）を得る、新しい事を見つける、を目指した。正しく解釈された露頭は、スケッチや写真の出来栄えが違う。今は多くの情報が溢れているが、野外調査のように源のデータをみて価値を判断したい。

教育学部の多く学生と教員の皆様に長い間お世話になり退職を迎えました。ご健康ですごされますようにと思っています。

教科からの発信を (退職にあたって)

生活健康講座(技術教育)

教授 古谷 吉男

昭和四十四年三月に本学部を卒業し、三年間、卒業研究した研究室で研究補助業務に携わりました。その後、広島大学理学部研究生、防衛大学校助手(機械工学教室)を経て、昭和五十九年十一月に本学部の出身教室に講師として採用されました。爾来、二十八年、無事定年による退職を迎えるに至りました。この間、同窓会の皆様には多くのご支援をいただきました。ありがとうございます。

本学に着任した翌年に協力して立ち上げた「長崎技術科教育研究会」の活動を通して、教科を挟んで教育現場との研究交流を深めてきました。この取組みの中で、教

科を取り巻く実践上の課題を知ることが出来ました。以下、技術教育の今後の発展への期待を込めて、少し所感を記してみます。

子どもの総合的な発達を支える上で、また、将来的に科学技術立国を見通す中で、科学や技術教育の重要性については誰しもが認めるところです。しかし、現行の学校教育の中でそのことが意識された技術教育の実践展開がなされているかどうかは極めて疑問に感じています。著名な科学者や技術者が数学や理科教育の充実・振興を主張する中、加えて、現行の進学、受験体制の下では、技術科からの発信は埋没しがちです。

新指導要領では「技術」領域の指導内容が大きく変わり、より焦点化されました。その内容が学習者や社会に支持されるのか、科学技術教育の一環としての発信力を持たせ得るのかが関心事です。本教科は、学習することそれ自体の価値を発見し得る多くの教材要素を内包しています。他教科と連携した有機的な展開により、本教科

のもつ総合的な教育力が発揮されます。学習指導要領を凌ぐ程の勢いのある実践により、日々の授業を通して発信し続けることが肝要かと感じています。子どもの教科観を変え、保護者を変え、地域を変え、国を変える気持ちで！担当される先生方の挑戦的な取り組みと、ますますのご活躍を期待しています。

充実から変革の時代へ ―三十五年間の感謝を込めて―

初等教育講座(理科教育)

教授 橋本 健夫



初めて駅に降り立った朝、長崎は一面の銀世界でした。ホワイトクリスマスで迎えてくれた地の暖かさに抱かれ続けて定年を迎えることになりました。永年のご支援に心からお礼を申し上げたいと思

います。

長崎に赴任が決まった時に母がいれば、「よかったね。でも大丈夫？」と心配したかも知れません。小さい頃からのやんちゃ坊主が大学の先生になるとは、母にとって思いもよらぬことだったと思います。それは私にとっても想定外のことでした。他人様の模範になる教職は最も苦手なもの一つで、できればコツコツと研究ができる職場があればと考えていました。それは、感情が顔に出やすく、上手を言えない性格を嫌と言うほど自覚していたからです。長崎への応募も随分考えてのことでした。公募書類の中にあつた「植物学」にありつただけの希望を載せて長崎大学に参りました。しかし、実験道具が全くない状況に、この希望は一瞬にして萎んでしまいました。それからは、自己改革の連続でした。コミュニケーションの基本を習い、育てることを第一に考える思考法を乞い、教育に関する書物を読み、学校現場を訪ねました。それらを今は懐かしく思い出すこ

とができますが、当時は必死でした。その頃親切に指導してくださったのが、玉園の諸先生方でした。授業を早く見せてくださり、離島では夜を徹して教育談義をして頂きました。その頃の蓄積が現在の私を作ってくれています。

小学校を始めとした四つの教員養成コースを維持し、教職大学院を含んだ教育学研究科を持つに至った教育学部は充実の道を歩んできました。しかし、右肩上がり時代は過ぎ去りました。少ない財源で、国際的な視野の獲得など、今まで以上の資質を持った教員をどのように育てるかという課題が教育学部に突きつけられています。世に後れることなく変わらなければならぬ時代になりました。変革への対応を後輩たちに託して、愛し続けた学部を去ろうと思います。有り難うございました。

長崎大学教育学部万歳

初等教育講座(理科・化学)

教授 森下 浩史

四十数年前、長崎大学教育学部を卒業して直ぐに本学部理科化学教室の助手として採用され、突然

に学生の身分から大学教員になりました。この時当然ながら、大学教員としてやって行けるかどうかの①②の不安を感じました。①(先輩として)学生の手本になれるか?②大学の職場に馴染めるか?学生時代は他人とのコミュニケーション力不足等々や自分に対するもどかしさが数多くありました。それが大学への就職と同時に、①②に挙げた不安に収斂してしまいました。

同期生の朝長昌三(心理、昨年退職)と古谷吉男(工業技術、今年退職)君も一緒に本教育学部に残りました。朝長君は専攻を数学から心理学に変え、心理の研究生として将来に対する不安に悩み続けていました。古谷君は身分の定まらない研究補助員としてではあ

りましたが、金属ハロゲン化合物などの結晶性化合物についての合成実験を繰り返して、数々の研究業績を挙げていました。この二人の立ち振る舞いを通して、多くの人生道がある事を肌身に感じさせて貰いました。

我々の学生時代には、大学三年生および四年生の時に長崎大学教育学部附属学校で教育実習を二度行いました。私の場合は、附属中学校理科の教科教員から指導頂きました以上に、クラス担任であった渡辺、山崎両先生に多くの事を学ばせて頂きました。渡辺威先生(元長与町教育長)と山崎滋夫先生(現県教育委員、元活水女子大教授)には、両先生の後姿から「教師道の暖かさ」と優しさ、「一人ひとりの子どもおよび教師仲間を大切にすること」の大切さを学びました。両先生のお教えにしっかりと支えられて、これまでの私の大学における教師人生を過ごしてこられたと思っています。

「教師道の暖かさ」と優しさ、「一人ひとりを大切にすること」の大

切さは、大学に奉職してからも故

柴田昇先生(元長崎大学教養部物理化学名譽教授)や陣野信孝先生(元長崎大学教育学部生物学教授)からも直接身をもって教えて頂きました。渡辺先生、山崎先生、故柴田先生、陣野先生、朝長や古谷君を筆頭とする同期生、そして多くの「たまご」の先輩、後輩の方々とは何らかの形で関わらせて頂いた事に、本紙面をお借りしましてこのより感謝申し上げます。なお、不安①学生の手本になれるかな?不安②大学の職場に馴染めるかな?は、退職までには到底解決出来そうにない事柄です。



おたっぴやだより

まーだ餓鬼大将

新上五島町 峯 利雄
(昭和三十八年卒)



とうとう町敬老会の御案内を頂きました。「名実共に老人になった」ということか」と一人で苦笑。剣道で若手や後輩達との交わりが多いので、年寄りという自覚が全くない日々を送っています。が、島外にいる孫達に「じいじ」と呼ばれるのだから、もはや致し方ないのかも。などと考えたりしてるところです。

定年退職を機に、京都と東京で実施される「剣道八段審査」を努力目標に、本格的な剣道修行を再開しました。十歳から始めた剣道（長大剣道部の一期生）は、「好きこそ物の上手なれ」ならぬ「下手の横好き」で継続六十一年。今は月三回土曜日に佐世保武道館に

日帰り稽古。普段は町内の中学校部活動に参加、禿頭の餓鬼大将でワイワイやっています。その他に県の稽古会、福岡の九州地区稽古会、宗像、熊本武道館、大村、小浜、長崎等々。定期的に剣道具を抱え武者修業といったところです。九州各地で多くの高段者の先生方に稽古を頂き、「廉恥・礼節」の武士道を具現した姿と言動に接し、この国の伝統的価値観である「武の徳」の素晴らしさを再認識しています。真剣で命のやり取りをしていた時代：かの柳生但馬守宗矩が「剣の道は、専ら人に勝つ事のみを求める道に非ず、」ならぬ事はならぬの心を養い、以て生涯を貫く道なり」と喝破しています。武士道の根幹は「ならぬ事はならぬの心・廉恥礼節の心」：人としてやってはならぬことは死んでもやらぬ：という「人の道」なのです。

現代社会の各界各層の人心の混乱は「ならぬ事はならぬの心」と廉恥礼節の心の消滅にあるように思えます。私は幸いですが「剣の道は人の道」：その奥深さに心を震わせ、のめり込んでいます。敬老会はもっと先延ばしにしましょう。

老化スパイラルを 機ね返す

佐世保市 田原 陽一
(昭和三十一年卒)



定年退職後、縁あって長崎短大に勤めることになり、早いもので、もう十八年になります。その間、病氣もせず、この仕事に専念できたのも健康に恵まれたからでしょう。「お元気ですね」と言われませんが、思い起こすと、昭和三十一年、就職が決まって、X線を撮った、肺病と判り、即入院。まさに、カフカの「変身」グレゴール・ザムザになった気持。当たり前の生活がどれほど素晴らしいことかを実感しました。新たに開発された結核・新薬のおかげで、もとの身体に無事カムバック。以来、健康第一、体力維持に努めてきました。

最近、ど忘れ、ドジなど、年を

感じる事が多くなりました。自戒を込めて、一般的な老化現象を思いつくまま挙げてみます。①待てなくなる ②感情的になる ③考えずに行動する ④行動が遅くなる ⑤言葉がはつきりしなくなる ⑥話が長くなる ⑦同じことを繰り返す ⑧人の話を聴かなくなる ⑨自分の意見に固執する ⑩人との接触を避ける ⑪忘れっぽくなる ⑫感情表現が鈍化する ⑬足腰が弱くなる ⑭服装・身なりに気を使わなくなる ⑮違った意見・見方に違和感 ⑯小さなドジが多くなる ⑰集中力の低下 この調子で行くと、どこまでも続きそうです。これらの老化現象を「他山の石」として、老化スパイラルに落ち込まないように努力しています。この反対のことを気がければいいかなと思っています。今のところ、私のドジ現象は授業や校務には及んでいません。若い学生・同僚・外国人とのふれあい刺激となつて、上記の項目のいくつかが活性化しています。ネガティブをポジティブに変えれば、まだまだ、がんばれそうです。やれるだけのことをやって、あとは、流れにまかせて生きていこうと思っています。

私の声

情報文化教育課程

上野 広恵

(平成二十三年卒)



「〇月〇日〇曜日、時刻は午後〇時を回りました。」

これは、私が去年の四月から毎日のように言っている言葉です。

私は、平成二十三年三月に長崎大学を卒業し、同年の四月から地元大村市にあるラジオ局、「FMおおむら」に入社し、パーソナリティという仕事をしています。放送で話したり、機械を操作したりといういろいろとこなしています。この「FMおおむら」は二〇一〇年三月十四日にJR大村駅舎内に開局し、二年が経とうとしているとても新しいラジオ局で、周波数は七六・三MHzです。大村市内の情報にこだわって放送し、話す内容は大村市内のこと、そして、原稿はありません。自分で大村市内を回って情報を収集してくるので、それは、食べたものや見た風景など様々です。

毎回違うことを話さなければいけないので大変ですが、今まで大村に住んでいて知らなかった場所

や歴史、イベントを知ることができ、楽しく仕事をしています。

よく「話すの大変じゃない？」と聞かれることがありますが、それはあまり感じませんでした。

というのも、私は大学で声楽を学び、長崎県立美術館でのイブニングライブや学内でのランチタイムコンサートへの出演、小学校や幼稚園を訪問しての演奏会など、人前で話すことが多く、得意分野としていました。この学生時代の経験が今、存分に発揮されています。

そして、今でも声楽は続けます。月に数回のレッスンを受ける、学生時代から所属している合唱団の練習にも参加しています。私が所属しているのは合唱団「翔」という団体ですが、嬉しいことに、昨年は九州合唱コンクールB部門で二位を頂くことができました。

自分の声を活かした仕事や趣味を続けられることは本当に嬉しいことだと、実感しながら日々を過ごしています。これからも仕事に歌に頑張ります。

そして、大村市内へお越しの際はぜひ、FMおおむらをお聞きください。運が良ければ私の声が聞こえてくるかもしれません。最後にになりましたが、学生時代様々な経験をさせていただいた先生方に本当に感謝しています。これからも、母校の発展をお祈りしております。

長崎大学全学同窓会

母校を訪ねて

西彼郡長与町 磯田 隆司

(昭和四十三年卒)

街路樹の木の葉が少しずつ色づき始めた昨年の十一月十九日、「第三回長崎大学ホームカミングデー」に参加する機会を得た。

正門の門柱に埋め込まれた『長崎大学』の表札や、門側の守衛室が昔のままの佇まいに懐かしさを覚えながら構内に歩を進めると、キャンパス内の風景が一望できた。

ただ、目に入る建物や行き交う学生の風情は、今も心象風景として残っている昭和四十年代当時とは大分異なり、隔世の感を強くした。そんな中で、広場の池の淵に立つ

「若人の像」と広場左手奥に建つ「中部講堂」は、昔ながらの面影を残し健在であった。

変貌した景観の中で、変わらぬ姿を目にした途端、一気に四十数年前にタイムスリップしたかのよう

に、当時の様子が蘇ってきた。授業そっこのけで部活動に明け

暮れたことや、酒を交えての友との大言壮語な語り合いなど、ほろ苦さを覚えるものばかりである。一方で、そんな時代があったからこそ今の自分があるのだとも心の中で呟いた。

久方振りで、限られた時間での母校訪問であったが、変貌を遂げ、発展する母校の現在の姿を目にし、あわせてセピア色のな自分の学生時代を思い起こさせてくれた今回の訪問は、まさに私なりの「ホームカミングデー」であった。



青春に乾杯

四十三年前に思いを馳せて

長崎市虹が丘町 有川 政秀
(昭和四十四年卒)

昨年十一月十一日に第十七回生同期会を開催しました。昭和四十四年三月の卒業生のうち八十一名が出席しました。

当時は全国的に学生運動が盛んで、激動の時代に学んだ仲間が集まりです。その頃は長崎県内での就職は難しく、出身地に戻った人、関東や関西などの大都市に出かけて行った人など、卒業生は全国各地に散らばりました。

今回も、東京、千葉、横浜、名古屋、大阪、神戸などの遠方から多数かけつけてくれました。また都合で参加できなかった人からは近況報告やお志が届きました。

集合写真撮影後に開会。まずは物故者へ黙とうを捧げ、乾杯・会食・懇談に入りしました。程よい頃参加者全員が短いスピーチをしました。学生時代の思い出、卒業後の動きや今の生活などが紹介されました。中には四十三年前にタイムスリップし、当時のチャシのコンビを配り、全学集会への参加を呼びかける演説を再現する人もいました。あの頃を彷彿とさせる熱弁に参加者は聞き入りました。余



長崎大学教育学部第17回生同期会
平成23年11月11日 於 ホテルセントヒル長崎

興では、スピーチをする人、カラオケで自慢のものを披露する人など、思い思いに楽しみました。とりわけ、プロ級のギターや尺八の演奏に会場は酔いしれました。最後は長崎大学学歌を高らかに斉唱し、元寮長による力強い万歳三唱で締めくくりました。あつという間の三時間でしした。

これまで数回開かれた小学校課程・中学校課程合同の同期会。お互いの健康と幸せを祈って、その最後の会が終わりました。

今後は各課程、各教科に分かれて開くことにしています。

四二同窓会 in 伊王島

長崎市川平町 村上 勲
(昭和四十二年卒)

「あゝかゝい 夕ゝ日がゝ 校舎を」

紅潮した顔で、還暦を過ぎた若者の歌声が伊王島の空に高らかに響き渡っている。

昭和三十八年四月に長崎大学教育学部に入學した八十名の若者は、四年後に、教育学部第一回卒業生として、それぞれが選んだ道を歩み始めた。その間、学生運動の波は西の端長崎まで及び、数ヶ月は授業どころか、学校にも行けない状況であった。同窓生にはいなかったが、退学処分者も出て、厳しい現実を卒業前に体験することとなった。そのこともあってか、互いを慈しみ助け合う絆の強い仲間になった。卒業すれば何とか教職に就けたが、就職難は身近に感じられる時代であった。

卒業して数回の同窓会を開いたが、全ての者が還暦を迎える平成十七年八月六日に、セントヒル長崎で、三十一名が参加して同窓会を行い、「長大教育四二同窓会」として、一年おきに会を開くことなどを話し合った。

島原半島(小浜)、県北(佐世保)と会を開き、平成二十三年十



長大教育42同窓会
平成23年(2011)11月10日 於 長崎やすらぎ伊王島

一月十日に長崎(伊王島)で十五名の参加であったが、東京、福岡、佐賀からも集い、全員が一泊しての会を行った。カラオケでは、冒頭の「高校三年生」を皮切りに四十年以上も前の歌ばかりであったが、気分は大学生に戻って青春を謳歌した。

今回は、長大生のボランティアグループに案内を得て、学舎である長崎大学の校舎を見学し、中部講堂や玄關の青年像を前にして、青春まつただ中であつた頃にタイムスリップすることができた。

同窓会のキーワードは「青春」である。これからも「青春」を保ち続けていきたい。

動いています同窓会

理科教育ゼミ

夏季研修会

長崎市立鳴見台小学校長 久松 邦夫

この研修会は、理科教育教室に橋本健夫教授が来られてから始まったものです。あれから三十五年。

本研修会は、発足当初はゼミ生の同窓会と理科教育の情報交換の場でした。その後、理科の教材づくりが中心となり、二泊三日で島原協同研修センターに合宿して、夜を徹して研究？するようにになりました。講師の川尻先生は「発泡スチロールカッター」を毎年バージョンアップされるものですから、作る度に数が増え我が家には現在五つほどあります。

現在は、一泊二日の日程で島原協同研修センターで行っています。内容は、一日目昼から大学三年生による「卒論開始の発表」、四年生の「卒論中間発表」です。OBからの厳しい質問攻めで冷や汗をかいた後は、スポーツで汗を流します。伝統の大学生対OBのソフトボール大会です。毎年なぜかOBが勝ちます。昔の学生はよく

遊んでいたのかな？

夜は、これも伝統の夜を徹しての懇親会です。大学生は楽しい「出し物」で、OBを歓迎してくれま

す。翌朝は、今度はOBが大学生から学校教育の現状について鋭い質問攻めに合い汗をかきます。楽しく有意義なこの研修会も橋本先生の御退官に伴い幕を閉じます。先輩一人もいなかった橋本ゼミには、二百四十人に及ぶ卒業生が活躍し後輩を育てています。ここまで育ててくれた橋本健夫先生に感謝感謝です。

東京支部・総会

東京支部事務局長 中島 敏

平成二十三年十月二十九日に東京玉園同窓会総会を開催いたしました。

一、武田会長挨拶

これまで幹事長、会計の任務を長年果たしてくださった瑞秀政裕、徳永昭典両氏が役を退かれました。その後任は、四十四年卒が受け継ぎました。

今年の会は、長崎港から再出航する船になぞらえると、いっそうの順風満帆を祈る同窓会でもありました。

二、事業計画案

定期総会を早める。二月に役員会、五月に総会。文化的活動の支援。会員増を図ることが急務。そのために、名簿の整理をする。名簿は配布せず、事務局で管理する等。

三、新役員

顧問 森 清見 (二二)
相談役 林田 莊七 (二三)

相談役

大瀬良佐吉 (二四)

〃

瑞秀 政裕 (二四)

〃

下釜 昭江 (二四)

〃

徳永 昭典 (二五)

会長

武田 公夫 (三四)

副会長

寺崎 利子 (三九)

〃

松浦 隆興 (二九)

〃

望月 信隆 (四五)

事務局長

中島 敏 (四四)

事務局

北村 清 (四四)

会計

坂井 治子 (四四)

〃

久保田和仁 (四五)

会計監査

畑島喜久生 (二四)

〃

元澤 利夫 (二五)

玉園同窓会を途絶えさせることなく、いや更に発展させなければならぬと肝に銘じているところです。

昨年度十八名の総会出席者が、本年度は十一名。師範卒の先輩方が少しずつ減ってきていること、そして入会新会員の少ないことが気になります。

東京玉園会は、今、存亡の危機にあるといっても過言ではないと思います。郷土の灯火を途絶えさせるな。師範、大学の灯火を途絶えさせるなと叫びます。



地区懇話会

同窓という意義を実感

諫早市立大草小学校長

田中一吉



三十二年前、長崎大学教育学部を卒業してすぐ教職に就くことができたのは、今思うと大変幸せなことでした。玉園同窓会にも自動的に入会し、以来会費を払い、会報を受け取るだけの関係でした。

ところが、今年は諫早で玉園同窓会支部懇話会を開催するようになり、その係をすることになりました。そこで、村田博支部長を中心に七名で実行委員会を立ち上げ準備に入りましたが、一番の心配は初めての会でしたので何人の方が集まってくださるかでした。

しかし、十一月二十六日は約五十名の参加を得て、盛大に開催することができました。小川大天同

窓会長様より同窓会の近況を、山路裕昭教育学部長様より教育学部や学生の就職状況等の話を伺うことができ、同窓会や母校に対して改めて親しみを感ずることができました。現職会員の発表を諫早市立北諫早小学校副校長、田中信仁先生と同飯盛中学校教頭、田上顕二先生にしていたいただきましたが、どちらも素晴らしい実践で協議も大いに盛り上がりました。



懇親会では、大学や同窓会本部との交流、現職と終身会員の先生、終身会員同士の笑顔の交流があらここに現われ、同窓という意義を実感した会になりました。当初の心配をよその懇親会は更に盛り上がり、楽しい同窓会になりました。

図書購入費助成の募集

社団法人長崎大学玉園同窓会は、長崎県内をはじめとする教育振興に寄与することを目的として活動を行っています。

そこで、その目的を達成するための事業として、「公立の小学校・中学校、県立の高等学校・特別支援学校、私立の小学校・中学校・高等学校」を対象に、図書購入費の助成を、下記の要領で募集を行うこととしました。

1 助成校	毎年5ないし6校	小学校	3校
		中学校	2校
		高校	1校
		特別支援学校	1校

2 助成金額 1校につき10万円程度
3 募集期間 平成24年3月1日(木)～6月15日(金)

4 応募先 長崎大学玉園同窓会
〒850-0029 長崎市八百屋町36番地
(長崎県教育会館内)
電話 095-824-5494

5 応募手続き ①希望する学校は、電話で、長崎大学玉園同窓会へ連絡する
②希望する学校へ「募集要項」を送付する
③希望する学校は、希望図書名・出版社名・冊数等を記入して応募する
④決定通知を応募した学校に通知する

一事務局より

ともに 終身会員として

今年三月、輝かしい業績を残し、同僚の方々や保護者・地域の方々に惜しまれながら、教育界に一応の区切りをなさる会員の皆様、本当に御苦労様でした。

本同窓会では、退職後も終身会員として、終身にわたり、本会の

進展に寄与していただけたらと願っています。

つきましては、御希望の方は、入会の手続きをよろしく願います。

(1)入会費 5000円(終身にわたって、会報を送付します)

(2)振込用紙 事務局へ連絡してください。